



医学教育共同利用拠点としての 現状と展望

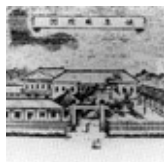
岐阜大学医学部医学教育開発研究センター
加藤智美、若林英樹、阿部恵子、
丹羽雅之、藤崎和彦、鈴木康之



岐阜大学医学部の歴史

- 1876 岐阜県病院に医学校設立（司町地区）
- 1944 岐阜女子医学専門学校
- 1947 岐阜県立医科大学
- 1967 国立岐阜大学医学部
- 2004 国立大学法人 岐阜大学医学部
医学部・附属病院の移転・新築（柳戸地区）

明治



大正



昭和



平成



MEDC

岐阜大学医学部全景



MEDC



MEDC

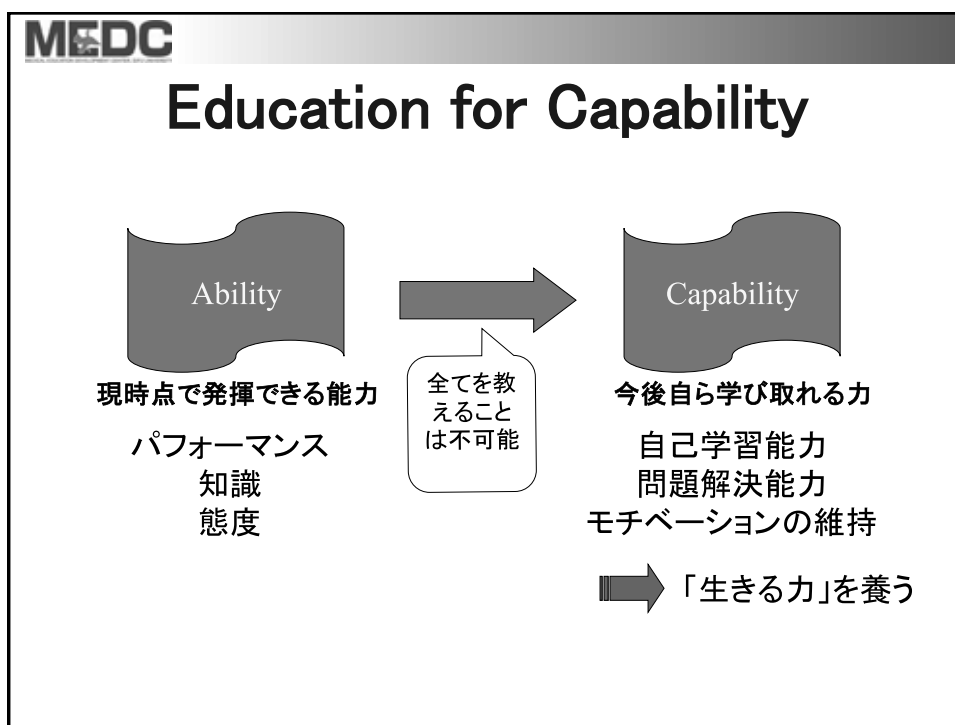
岐阜大学医学部 医学教育開発研究センター Medical Education Development Center (MEDC)

国立大学等の共同利用施設(旧国立学校設置法施行規則第20条の4の8で規定)として、「医学教育に関する調査研究及び開発、専門的研修その他必要な専門的業務を行い、かつ、国立大学の教員その他の者で、この分野の調査研究に従事する者の利用に供すること」を目的として、医学教育分野では初の全国共同利用施設として平成13年4月に設立。

MEDC

世界的な医学教育改革の流れ

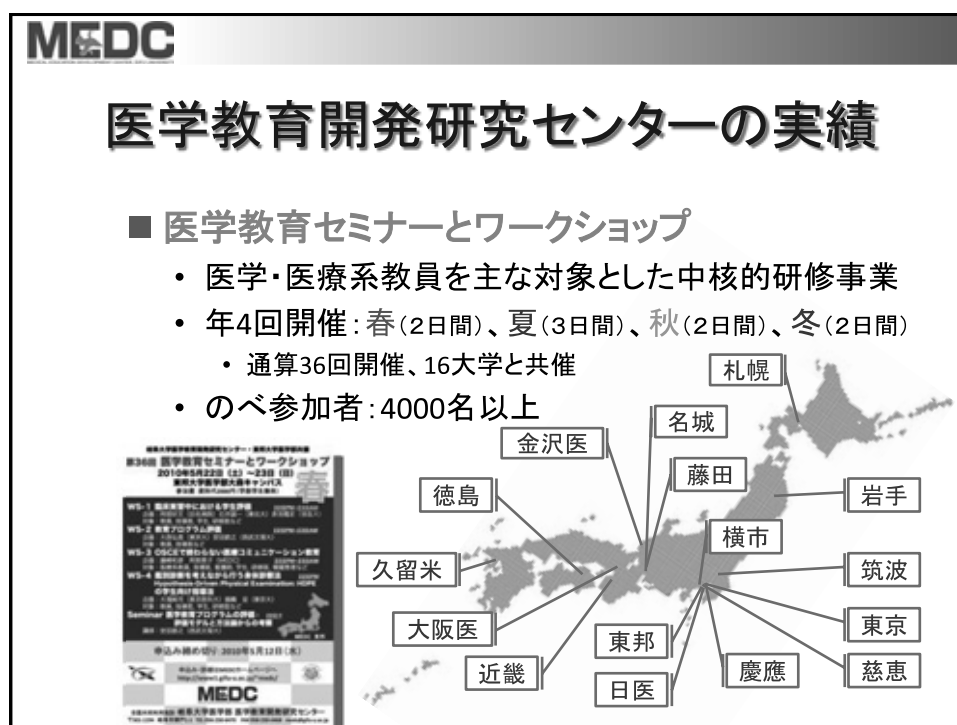
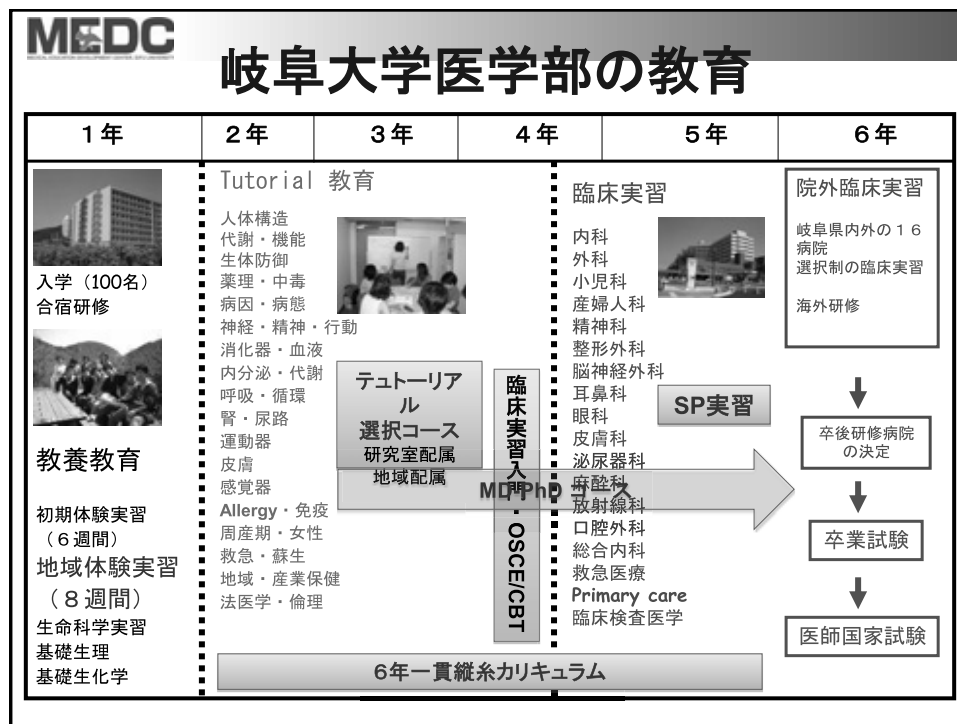
- 1960年代
 - ①行動科学教育を中心とした全人性教育
 - ②包括医療教育としての臓器別統合型カリキュラム
 - ③プライマリ・ケア医養成のための地域志向型教育
- 1970年代
 - 自己学習能力養成のための
PBL(問題基盤型学習)チュートリアル
- 1980年代
 - GPEレポート(AAMC:米国医科大学協会)
 - New Pathway の導入(ハーバード大学医学部)
 - OSCE(客観的臨床能力試験)の開発
- 1990年代
 - OSCE、PBLの世界中への広がり
- 2000年代
 - Outcome Based Education、
 - プロフェッショナル教育、ポートフォリオ評価



MEDC

岐阜大学の教育方略

• PBL-テュートリアル 統合カリキュラム	1996
• クリニカル・クラークシップ	1996
• 初期体験実習	1997
• コミュニケーション教育	1999
• 新カリキュラム	2008



医学教育開発研究センターの実績

■ 教務事務職員研修（国立大学医学部長会議主催）

- ・ 教育支援に不可欠な事務職員の能力開発を目的
- ・ 年1回開催：通算9回開催（2泊3日）、のべ受講者 465名
- ・ フォローアップ：メーリングリストによる情報提供・情報交換

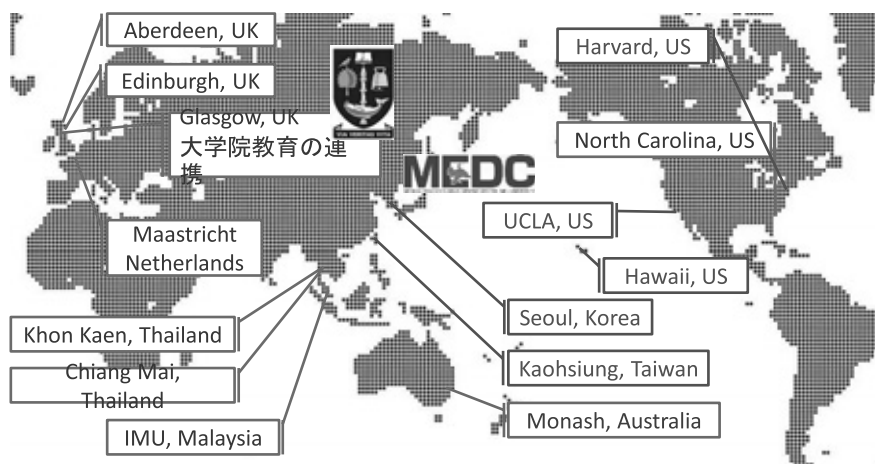
■ 他大学・組織に対する研修事業

- ・ 全国の医学部、医療系教育機関（歯学、薬学、看護、理学療法など）、学会等からの要請に応じて、医学教育に関する知識・技能・研修事業を提供

	組織数	依頼回数	年平均
医学部	34	78回	8.7回
他の医療系	21	39回	4.3回
学会等	19	61回	6.8回
合計	74	178回	19.8回

医学教育開発研究センターの実績

■ 客員教授・国際交流



MEDC

医学教育開発研究センターの実績

■ インターネット・テュートリアル教育

- ・ 大学、地域、国の枠をこえ、また学部・大学院などの各レベルに応じた問題基盤型共同教育(インターネット・テュートリアル教育)を運営
- ・ 通算62コースを実施
- ・ 参加者数のべ4349名(うち教員のべ502名)、参加国8か国

■ 大学院の設置

- 医学教育学分野の研究促進と次世代の人材育成を目的
- 平成20年4月、岐阜大学大学院医学系研究科博士課程に医学教育学分野設置

■ その他

特色ある大学教育支援プログラム「能動・思考促進型を柱とする全人的医学教育」（平成15～18年度）、現代的教育ニーズ取組支援プログラム「臨床医学教育を強化向上させるICT－e-Learning で培う医の心と技－」（平成19～21年度）の採択

MEDC

樂位置樂 THE TUTORIAL

自由講座The Tutoria!とはインターネット上で運営されるフェスティバル・システム。MECが運営します。1
年中どこにいても、いつでもフェスティバル教育に参加できます。自分の強みの無数の片断に同時に参加できる、異例
的に自己学習です。自由に選んで、参加出来ます。すなわち、進捗状況や進め方は自分のフェスティバルです。
参加できるのは、全国の学生、教員、関係者など、全国のボランティア教員や教員がサポートします。教員・関係
者もその仕事をしながら、教育に参加できます。

[学ぶという事](#) [チュートリアル具体例](#) [参加方法](#) [連絡先](#) [ログイン](#)

 学生として
参加したい



 現在どんな
コースを募集中？

チュートリアル って何？


 高位置高 THE
 TUTORIAL って
 どんな人が参加するの？

学生時代何を学ぶべき？

何が医学上の
問題？

→ 南位置への参加方法 ←

はじめて
デュートリアルに
参加する方

● 参加費1,350円(税別)です。

参加したいコースを選ぶ

[参加したいコースへ登録する](#)

● 数据源与数据表

おめでとう！
これで君も楽位置メンバーだ！

→ 単位講座The Tutorial 理念
国民の健康を守る医師を育てるのは、医学部の教員だけの仕事ではありません。
病院で働く医師、開業医、現場を離れた医師
あなたが医学部に在籍していないくても、それはインターネット社会では、何の障壁にはなりません
新しい医療を担う人材を育てる仕事に、あなたの力を貸してください。



医学教育開発研究センターの実績

■ インターネット・テュートリアル教育

- 大学、地域、国の枠をこえ、また学部・大学院などの各レベルに応じた問題基盤型共同教育（インターネット・テュートリアル教育）を運営
- 通算62コースを実施
- 参加者数のべ4349名（うち教員のべ502名）、参加国8か国

■ 大学院の設置

- 医学教育学分野の研究促進と次世代の人材育成を目的
- 平成20年4月、岐阜大学大学院医学系研究科博士課程に医学教育学分野設置

■ その他

特色ある大学教育支援プログラム「能動・思考促進型を柱とする全人的医学教育」（平成15～18年度）、現代的教育ニーズ取組支援プログラム「臨床医学教育を強化向上させるICT－e-Learning で培う医の心と技－」（平成19～21年度）の採択



共同利用する大学や利用者に対する支援体制

■ 他大学からの要請に応じた講師派遣

■ 他大学の教育・研修施設との連携

- 医学教育セミナーとワークショップ（以下医学教育S&W）において共催校の教育・研修組織と連携し、企画・運営

■ 教職員研修に関する情報収集・調査研究と相談体制

- 医学教育S&Wにおける参加者の満足度・フィードバックなどの調査（毎回）結果を“新しい医学教育の流れ”（年4回当センター発行）に掲載
- 研修事業分析結果の日本医学教育学会機関誌への報告
- 視察・相談の受入（随時）（年間約10件程度）



共同利用する大学や利用者に対する 支援体制

■ 研修コンサルタントとしての経験、専門性を備えた専任 担当者

- ・ 専任スタッフは医学教育S&Wの講師を務め、また他大学等の要請に応じて各種研修会を企画・指導する力を備えている。
- ・ 教員毎に多様な専門性(問題基盤型学習、医療コミュニケーション、臨床スキル、シミュレーション教育、e-ラーニング、プロフェッショナリズムなど)

■ 教職員の組織的な研修等を支援するための教材やプ ログラム等を開発する体制

- ・ “新しい医学教育の流れ”に、医学教育S&Wで使用した各種資料を掲載
参加者自らが研修会を実施する際の支援教材となっている
- ・ 当センター教員は他大学等の要請に応じて研修を企画する能力を有しており、
他大学の教員と共にプログラムを開発する体制となっている



教育関係共同利用に関する 情報提供・情報発信

■ 新しい医学教育の流れ

- ・ 医学教育S&Wの記録集として年4回発行。
- ・ 全国の医学部・歯学部、医学教育組織等に情報提供。

■ センター年報

- ・ センターの取組実績について毎年1回発行。全国の医学部等に情報提供

■ 出版事業

- ・ 問題基盤型学習、医療コミュニケーション、医療英語などに関して教材を出版



■ 各種パンフレット

- ・ 医学教育開発研究センターの概要、問題基盤型学習の解説、大学院の概要



教育関係共同利用に関する 情報提供・情報発信

■ ホームページ <<http://www1.gifu-u.ac.jp/%7Emedc/index.html>>

- 医学教育S&W、インターネット・チュートリアル、医療コミュニケーション教育、客員教授、医学教育ユニットの会、医学教育用語解説(ビタミンEメール、ながら情報)、スキルスラボ、シミュレーション学習教材などの情報提供

■ メーリングリスト

- 医学教育S&W参加者向け、教務事務職員向け、医学教育ユニット教員向けに各種メーリングリストを構築し、医学教育に関する最新情報、各種研修会や共同プロジェクトに関する情報提供、参加者間の情報交換・意見交換を行っている。

M&DC

医学教育共同利用拠点としての 今後の展望

■ 従来の研修事業の継続・発展

- 医学教育S&W: 受講者のニーズに合わせた対応の強化
- 他大学他大学における教員研修: 各大学の指導者育成への一層の貢献
- 大学院: 高度な医学教育専門家の育成および研究成果の情報発信の推進
- 客員教授と国際交流: 国内外の連携のさらなる促進

■ 共同研究・共同開発事業の強化